

Ibara City Hospital

井原市立 井原市民病院

診療科目

内科・循環器内科・外科・整形外科
 眼科・泌尿器科・放射線科・耳鼻咽喉科
 リハビリテーション科・婦人科・小児科
 皮膚科

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地

TEL.0866-62-1133 FAX.0866-62-1275

E-mail:byoin@city.ibara.okayama.jp

発行責任者/山田 信行

新年を迎えて

井原市立井原市民病院 院長 山田 信行



明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新たな抱負を持って新しい年をお迎えになられたことと存じます。市民ならびに職員の皆様方には井原市民病院の運営につきまして格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は1月の院内保育園(まいづる保育園)の開設に始まり、日本医療機能評価機構からの認定(Ver.6)、原藤 和泉前院長先生のご退任、待望の皮膚科の新設がありました。院内保育園では現在、15人の園児が澄み切った可愛らしい瞳を輝かせながら楽しく過ごしています。日本医療機能評価機構Ver.6の認定は岡山県下の自治体病院では2番目であり、職員の努力に感謝するとともに、更なる医療の質の向上を目指していきたく考えています。

さて、井原市の医療提供体制について少し触れたいと思います。井原市の人口は約4.4万人で、医師数は41人、一般病床数は264床、療養病床数は127床です。これを人口10万対で見ますと医師数は92.8人(全国平均212.9人)と全国平均の半分以上、一般病床数は494床(同709床)、療養病床数292床(同263床)、訪問看護ステーションは市内で一か所と、いずれも不十分な状況です。高齢化率が30%を超える井原市にとっては療養病床数も一般病床数も少なく、とりわけ医師数は岡山県下でも新見地区に次いで少なく、医師不足は極めて深刻な状況です。こうした中、当院には高齢者で長期入院を必要とされる方も多く、地域住民が当院に最も期待している一般救急への対応も必要であり、井原市の総病床数391床のうち180床(一般病床120床、医療療養病床60床)を有する当院が地域で果たすべき役割は広く大きく、急性期から回復期、慢性期医療までを常勤医師9人という非常に限られた人的資源の中で担わなければならない、難しい舵取りが求められています。当然、一病院でできることには限界があります。井原市の保健・医療・福祉提供体制について、限られた医療資源の中で何が出来るか、市民、行政、医療機関と、より緊密な連携を図りながら、再構築に向けて真剣に取り組まないといけない瀬戸際に来ていると思います。

当院のMission(使命)は「地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する」であり、Vision(将来展望)は「いつでも安心してかかる、身近で愛される急性期病院」です。救急医療は医療の原点であり、働きやすさは文化です。患者と職員の満足が共に得られるように職員全員で力を合わせて、この難局に立ち向かっていこうと思います。昨年12月の全国高校女子駅伝で優勝した興譲館高校(井原市)の「ぶれない走り」に負けずに!

今年が皆様方にとって希望の年でありますように祈念致しますとともに、本年も今まで以上に、ご指導・ご鞭撻ならびにご協力をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

2011年初春

病院機能評価

新年明けましておめでとうございます。

昨年の初めに、「機能評価更新に向けて」を書かせていただきました。まずはその後の報告を先にさせていただきますと「9月3日に合格」の嬉しい通知が届きました。

この度は経過と今後の病院に対する思いを書かせて頂きます。2010年4月の受審になると院長、副看護部長の退職、又事務所等異動がありそれらの事を配慮して、押し迫った3月24、25、26日の3日間でした。日本医療機能評価機構の方が7名来院され、自己評価項目の調査票にしたがい書類確認後、部門ごとに分かれての質疑応答後、現場との整合性の確認の為院内をラウンドとなりました。3日目の最後の日には、各責任者が集まり全体の講評を聴き、当院の現状を把握し今までの取り組みの結果をお互いに再確認いたしました。全職員、チームワークで取り組み、医師の少ないなかでリーダーシップを発揮して頑張れたと思っています。

今後も合格に安心して留まる事のない様、組織としての目的・理念・目標を明示し、相互の意思統一を図りながら地域住民の皆様への期待に沿えるよう、また職員一同「安全」「安心」な病院を目指し、全体の質向上に向けて日々研鑽し5年後に引き続き更新できるように頑張っていきたいと思っています。

看護部長 平井 千枝子



病院機能評価 ver.6 認定証

内科勉強会のご案内

病気と食事について話し合う会(第4回)を開催いたしました。

今回のテーマ:「怖い心臓病」(心筋梗塞、狭心症)
「心筋梗塞の予防と再発防止には食生活が強い関わりをもっています。予防に効果的な食事は・・・?」

この会は、毎月、テーマを決めて、開催しております。皆様と一緒に勉強してみませんか?内容については、院内にポスターを掲示し、ご案内させていただきます。

次回のテーマ:「心不全」「厄介な心不全と上手につき合うために」
 日時:平成23年2月21日(月) 13:30から
 担当:内科医師、管理栄養士
 参加ご希望の方は、内科外来または栄養科までご連絡ください。人数に制限がありますのでご了承ください。(TEL62-1133まで)

健康教室のご案内



当院では毎月第4金曜日に健康教室を開催しております。どなたでも自由に参加していただけます。ぜひお立ち寄りください。

- 第35回 平成23年1月28日
 - リハビリテーション科 「失語者への接し方」 言語聴覚士
 - 放射線科 「脳ドックのススメ」 診療放射線技師
- 第36回 平成23年2月25日
 - 栄養科 「糖尿病が気になる人の食事」 管理栄養士
 - 看護部 「生活習慣病とは?糖尿病パート2」 看護師
- 第37回 平成23年3月25日
 - 検査科 「超音波検査について」 臨床検査技師
 - 眼科 「目薬のさし方」 視能訓練士

地域栄養改善研究会

地域栄養研究会 勉強会

病院・施設の職員また介護スタッフ職員の方が対象となる勉強会です。

- 活動日は偶数月の第3火曜日 18時10分~1時間程度
- 平成23年2月15日(火) 「栄養足りていますか?」 ~在宅での栄養管理について~
 - 平成23年4月19日(火) 「介護職のための胃腸の話」
 - 平成23年6月21日(火) 「褥瘡と栄養管理」

地域栄養研究会 看護師部会 栄養士部会

各病院・施設・介護スタッフの看護師さん、栄養士さんが対象となります。

- 活動は奇数月の第3火曜日 18時10分~1時間程度
- 平成23年3月15日(火) 糖尿病をよく知ろう2「糖尿病の合併症」
 - 平成23年5月17日(火) 糖尿病をよく知ろう3「SMBG・フットケア・診断基準」
- (勉強会のあと情報交換の予定。)
参加申し込み、お問合わせ…地域連携室 渡辺

井原市民病院基本理念

1. 患者の権利を尊重し、情報提供によって患者が納得出来る医療を行い、地域住民に信頼される病院を目指します
1. 医学の進歩に相応した高いレベルのしかも安全管理が行き届いた医療が行えるよう、日々研鑽に励みます
1. 地域医療体系の一環として相互の連携を密にし、機能分担を考慮した効率的な医療を提供します
1. 医療を受ける側の身になって考え、暖かい心の手を差し伸べることを忘れません

井原市民病院職員の誓い

1. 私たちは、市民の生命(いのち)と健康を守り、心のこもった診療をいたします。
2. 私たちは、質の高い医療を目指し、日々研鑽いたします。
3. 私たちは、病める人の身になって考え、最善の理解者となるよう努力いたします。

市民病院心臓リハビリテーション開始にあたって

新年明けましておめでとうございます。

昨年の市民病院のビッグなニュースは福山市民病院から山田信行先生が、7月に井原市民病院長として就任されたことでもあります。早いもので半年が過ぎました。山田院長の赴任により、当病院では新たに循環器内科を標榜し当地域での心疾患の患者様の診療をさせていただいておりますが、その医療の特色づくりや専門性をさらに高めるため、心臓リハビリテーション（略して心臓リハビリ）を新たに開始することとなりました。

心臓手術後や心筋梗塞・狭心症・心不全等をお持ちの患者様は日常的に身体的・精神的に不安な毎日をお過ごしのことと存じますが、この心臓リハビリは、心疾患の患者様の身体機能回復支援や再発防止を運動で図るプログラムであります。

このリハビリ開始にあたっては、まず心肺運動負荷試験検査を行い、患者様の体力を確認してから、医師、看護師、理学療法士のいる中での運動療法を行うものであります。この運動を行うことで日々の身体的・精神的な不安から解消されることが大いに期待されるのであります。

なお、非常時には心臓血管外科系の病院と連携を取れるように万全を期しております。

実施時期ですが、当院では平成23年1月11日より患者様に対する心臓リハビリを毎週火曜日と木曜日の午後から予約制ですすめています。

担当医は2名であります。場所は、理学療法室の一画にスペースを設けて専用の最新リハビリ機器を設置して運動療法を行います。



今日、成人病の4大疾患は糖尿病や悪性腫瘍、心疾患、脳血管障害であります。中でも高齢者の心疾患の患者様も多くを占めておられる現状から、日々の身体的・精神的な不安を思い悩まれる前に是非心臓リハビリの治療により、皆様の元気を回復していただきたいと存じます。

今は始めたばかりですので、心臓リハビリについての患者様への案内はこれからであります。今後は大学病院をはじめ市内外の医療機関にしっかりとPRして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

市民病院 事務部長 佐藤純士

職員研修 「地域における井原市民病院の役割と課題」

去る12月22日、病院職員を対象とした研修会が行われました。これからの市民病院はどうあるべきか、どのように進むべきかを山田院長を講師に迎え病院職員の役割と課題について話し合いを行いました。

市民アンケート調査結果 2009年2月25日

財務分析	医療レポートデータ分析	市民アンケート分析	検討課題
医療収益減少 ・ 外來収益減少 ・ 産科休診による患者数減少 ・ 入院収益減少 ・ 一層増床 病床利用率90% 総合評価 28,000円台 ・ 医療費削減 病床利用率90% 診療単価 15,000円台 医療費用増加 ・ 材料費率は低減したが、人件費率が60%超	40,000円超65%市外へ 20,000~40,000円台 40%市外流出 20,000円台以下 64%市外流出	産科小児科医後への期待は高い 高度医療への期待と評価は低い 満足度が揃えても機能強化 33% 医師確保への評価は低い 医師確保への評価は低い	医師確保の可能性検討 第一-診療科目拡大による流出患者の取り込み 病状の重症化 重症化患者の対応 重症化患者の対応 重症化患者の対応

立地・経営状態 現状維持70%
統合・民間化・不要20%



井原市民病院のMission 地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する。

井原市民病院のVision いつでも安心してかかれる身近で愛される急性期病院。

来年のスローガン 現状の維持強化のために 職員一人一人が自分でできることは何かを考えて まず一歩前へ!

当院の外来化学療法室と化学療法委員会の紹介

従来、がん化学療法の多くは、入院して行われてきました。しかし、社会復帰の要望、抗がん剤の副作用対策や投与方法の進歩に伴い、化学療法が外来で行われるようになりました。当院でも、地域で外来化学療法が安全に安心して受けられるよう、H20年5月より、化学療法室を開設しました。点滴ルームは2Fに2床あり、完全予約制です。アロマが香る静かな空間で、リラックスして治療が受けられます。ベッドにはテレビもあり、軽食を取ることも出来ます。

化学療法室では、専任の看護師、薬剤師、各科担当医、MSWが対応しています。また、薬剤の混合は、安全キャビネットを用いて行われたものが、払い出されます。



薬剤師による抗がん剤のミキシングの様子

副作用については、専任看護師が、ベットサイドで、日常生活の状況を確認しながら、個々にあった指導を行い、セルフコントロールについて一緒に考えています。

化学療法委員会はH17年11月に発足しました。化学療法に関する、施行マニュアル、記録様式、レジメン審査と登録など…システムをつくり、構築してきました。化学療法室と委員会は協働で機能しています。例えば、当院で初めて行われるレジメン(治療計画書)は、必ず「新規レジメン登録申請手順」に従って、委員会で審査を行い登録され、院内治療の標準化を行っています。現在、15のプロトコルが登録され、利用されています。各々、ケモフローチャートが出来ており、治療の流れを図式化したものと経過記録用紙が一緒になっています。記録用紙は、全て電子カルテと連動し、身長・体重、体表面積から推奨投薬量が人力でできるなど、安全なシステムになっています。

近い将来、2人に1人ががんになり患する時代となります。がんの地域連携パスができ、当院でも化学療法を受ける患者が増える予測されます。当院化学療法メンバーは、チーム医療でがんの患者さんを支えていきたいと、熱い思いでがんばっています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



化学療法委員会 審査の様子

化学療法委員 4F看護師長 木口 由香里

ボランティアの方々



ピアノ弾き語り 橋本直子さん

~クラシック 童謡から美空ひばりまで~
ソプラノ 鈴木沙久良さん ピアノ 齋藤慶子さん

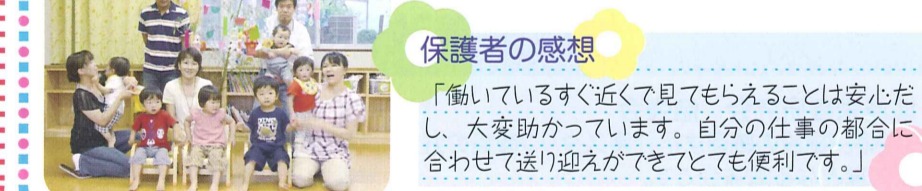


植え替えられたパンジー 院内ボランティア ひまわりの皆様

皆様のあたたかいご好意に感謝申し上げます

まいづる保育園

現在 15 名の (0 歳から 4 歳まで) 園児が毎日元気に通っています。月曜日から土曜日まで毎日、3 名(少人数の日は 2 名)の保育士さんがしっかり面倒を見てくださっています。季節ごとにいろんな行事など行われていますよ。保育時間は 7:30~19:00 (延長保育 20:00 まで)で正職員だけでなく病院に勤務している全職員の 0 歳から 6 歳(就学前)までの乳幼児が入園可能となっています。もちろん職員が父親でも入園可能です。



保護者の感想 「働いているすぐ近くで見てもらえることは安心だし、大変助かっています。自分の仕事の都合に合わせて送り迎えができてとても便利です。」

お疲れナースの旅行記 ver.3

今回はベトナムとカンボジアに行ってきました。メインはもちろん世界遺産のアンコール遺跡群です。ヒンドゥー教や仏教から影響を受けたという独自の宇宙観、シンメトリーの美しい外観や緻密で生き生きと描かれた壁画や艶やかな女神像たち、パイオンの神秘的な観音菩薩の微笑みなど、緑深い森の中に点在する遺跡に建築物と装飾が残っており、神々やその時代の人々の息吹を感じ感動しました。

現在も各国の協力のもと遺跡の修復作業が続いています。遺跡が破壊されている理由には大きく3つあるそうです。1つは戦争。アンコール王朝時代には宗教や領土問題で戦争がおこり、近代においても1991年まで内戦がありました。また、近年まで国として遺跡群の管理ができていなかったため、美しいレリーフや石像がたくさん盗まれてしまったといえます。さらに、風雨はもちろんですが、400年以上ジャングルに閉ざされた遺跡には、太く大きい木が石と石の間に根をのばし遺跡を破壊していました。人間が造ったものを破壊するのも、守るのもやはり人間なのですね。

アンコール遺跡群をまわるためには入場券が必要です。3日間で\$40。遺跡の修復や管理にあてられているそうです。この遺跡群を守っていくためには必要なお金であり、決して高いとは思いませんでした。

ベトナム・カンボジアは共に近代まで戦争があった国ですが、今は平和になっています。現地のガイドたちは平和のありがたさを実感を含めて話してくれました。

1月からカンボジア入国にビザが不要になるそうです。是非アンコールワットの壮大さを自分の目で確かめに行ってみよう。4F 病棟看護師 藤井亜弥



奈良マラソンに参加して



平城遷都 1300 年記念奈良マラソン大会 2010 に行ってきました。

きっかけは、観光しながら体力作りができるというミーハーな気持ちでした。

今回は 5 km コースを走ったのですが、途中追い越されることはあっても、追い越すことのない私の周りにはランナーの姿は少なく、気付けば沿道に子供たちや楽器の代わりに鍋の蓋を持って温かい声援を送ってくれる地元の人たちがいました。

また、ゴールした時は、他のランナーから『お疲れ様』と声をかけられても贅沢な時間を過ごす事が出来ました。

マラソン後は、大仏や日本清酒発祥の地の正暦寺などを観光してきました。マラソンはしんどいスポーツだけど、自分自身と向き合い考える時間を与えてくれます。さらに、初めて会う人達とも交流ができ、そこで新たな発見が生まれます。

遠方の大会に行くと、土地の食べ物や味、観光もできる。興味のある方はどうぞ参加してみてください。5F 病棟看護師 山本康江